

## シンポジウム

### 「地質記録から探る静岡県の低頻度大規模自然災害」 の開催

日本地質学会中部支部 2016 年年会において、下記のシンポジウムを開催します。一般の方も参加できますので、末尾の文面をお読みいただき、期日までにお申し込み下さい。

2016 年 6 月 11 日（土） 10:30～12:40

会 場：ふじのくに地球環境史ミュージアム（〒422-8017 静岡市駿河区大谷 5762）

シンポジウム：「地質記録から探る静岡県の低頻度大規模自然災害」

世話人：山田和芳（ふじのくに地球環境史ミュージアム）・北村晃寿（静岡大学理学部・防災総合センター）

共催：ふじのくに地球環境史ミュージアム、静岡大学防災総合センター、静岡大学地殻・マントル変動フォーラム

**趣旨**：1978 年に成立した大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づき、静岡県全域の市町村が地震防災対策強化地域に指定された。この強化地域は、東海地震が発生した場合に「震度 6 弱以上の地域」と「20 分以内に高い津波（沿岸で 3 m 以上、地上で 2 m 以上）が来襲する地域」である。しかし、大震法制定から 38 年が経過し、その間に日本観測史上最大の東北地方太平洋沖地震と巨大津波が発生し、甚大な被害が出た。これを教訓に、国は南海トラフ沿いで発生する最大クラスの巨大地震・津波については、千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものであるが、仮に発生すれば甚大な被害をもたらす「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波」を想定した。しかしながら、この想定はわずかな地球科学的知見に基づくものであったため、東北地方太平洋沖地震以降、静岡県はもとより日本各地で低頻度大規模自然災害に関する調査が行われており、研究成果が蓄積されてきている。本シンポジウムでは、静岡県の低頻度大規模自然災害の最新の研究成果と防災対策を紹介する。

**開催のあいさつ** 安田喜憲館長（ふじのくに地球環境史ミュージアム）

10:35-10:55 **南海・駿河トラフの巨大地震の研究の経緯**

・・・安藤雅孝客員教授（静岡大学防災総合センター）

10:55-11:15 **東日本大震災と貞観地震・津波の地質学的痕跡**

・・・菅原大助准教授（ふじのくに地球環境史ミュージアム）

11:15-11:35 **南海・駿河トラフの巨大津波のシミュレーション**

・・・原田賢治准教授（静岡大学防災総合センター）

11:35-11:55 **地質記録から探る静岡県の巨大津波・地震の記録**

- ・・・北村晃寿教授（静岡大学理学部・防災総合センター）  
11:55-12:15 静岡県周辺の大規模火山災害と低頻度巨大災害リスクの定量評価  
・・・小山真人教授（静岡大学教育学部・防災総合センター）  
12:15-12:35 静岡県・静岡大学の低頻度大規模自然災害への防災  
・・・岩田孝仁教授（静岡大学防災総合センター）  
閉会のあいさつ 増田俊明教授（静岡大学理学部・防災総合センター）

・シンポジウムの参加費は、一般大人は 200 円，70 歳以上の方と大学生・大学院生は無料。なお，一般大人はミュージアムの入館料 300 円が別途かかります。

・会場の収容人員に制限がありますので，先着順とさせていただきます。参加を希望される方は，氏名・所属・合計人数・連絡先(E-mail 又は TEL)を明記の上，平成 28 年 6 月 6 日(月)までに，下記の参加申込先に，Fax か E-mail でお申し込みください。

申込先 ふじのくに地球環境史ミュージアム（担当：山田）

Fax : 054-238-5870

E-mail : museum-gakugei@pref.shizuoka.lg.jp